

# 役割語の観点から見る漫画の感動詞「うむ」

梅林 博人

## 一 はじめに

小稿では、漫画などに散見する次の①～④のような感動詞「うむ」について、以下（Ⅰ）（Ⅱ）の二点を述べてみたい。

① 栗田ゆう子社員「いいかげんな食べ物が氾濫している今だからこそ、本物の食材というところに重点を置くべきだと思っうんです。」

大原大蔵社主「うむ……」（『美味しんぼ』② 八五頁）

② 谷村秀夫部長「うむ、この舌ざわりこの歯ごたえ、比較にならないうまさだ!!」（『美味しんぼ』② 一二九頁）

③ 谷村秀夫部長「うむ、うまい!」（『美味しんぼ』③ 五九頁）

④ 屋台そば店主「へいお待ち。」  
中松警部「うむ。」（『美味しんぼ』② 六三頁）

（Ⅰ）感動詞「うむ」は、役割語<sup>①</sup>の一つで、その内の〈上司語〉にあたると考えられる。

（Ⅱ）感動詞「うむ」は、唇を閉鎖した鼻音を「うむ」とかな表記することで「役割語度」<sup>②</sup>を高めている。換言すれば、そのようにかな表記することによって、役割語であることを分かりやすく示している。

## 二 感動詞「うむ」の使用者の特徴

感動詞「うむ」は、漫画ではある程度見いだされる表現であるが、その語の使用者には偏りがある。①～④の使用者とその【属性】を見てみると、

- ① 大原社主 【地位のある】 【高年の】 【男性】
  - ②③ 谷村部長 【地位のある】 【中高年の】 【男性】
  - ④ 中松警部 【権力のある】 【中年の】 【男性】
- となっている。

こうした属性は、(上司語)である「うたまえ」を使用する者の属性、すなわち、「地位や権力を持った男性」(金水編(二〇一四) ix頁)、「作品中に上司という立場で登場する、中高年層の人物」(金水編(二〇一四) 一二二頁)と、まさに一致している。

したがって、①～④のような感動詞「うむ」は、役割語の一つで、その内の(上司語)と見なすことができると考えられる。

そして、そのため、

○ 栗田ゆう子【新入社員】 【若年】 【女性】

というように、上司とは対極的な属性を持つ登場人物の栗田ゆう子(用例①にも登場)は、今回見た『美味しん

ぼ』①～③では、感動詞「うむ」を用いていない。(ただし、百巻以上ある『美味しんぼ』で、栗田ゆう子が感動詞「うむ」をまったく用いていないかどうかについては、今回調査が及んでいないため不明である。話が進展するにつれ、栗田ゆう子の立場も変わるのので、使用が皆無かどうかは調査が必要であり、今後の課題である)。

## 三 感動詞「うむ」の表記と役割語

役割語には「必ずしも現実の日本語とは一致しない、というより、全然違っていている場合が多い」(金水(二〇〇三) vi頁)という特徴がある。この点の説明を、金水(二〇〇三) は次のように続けている。

たとえばあなたは、「そうじゃ、わしが博士じゃ」という博士に会ったことがありますか? 「ごめん遊ばせ、よろしくつてよ」としゃべるお嬢様に会ったことがありますか?、そんなものはどう考えても今の日本には存在しませんね。それにもかかわらず、みんな知っている役割語。いったい、私たちはどこでどのようにして役割語を身につけるのでしょうか

か？（vi頁）

つまり、誰もが知っていて、相応に見聞されるにもかかわらず、よくよく考えてみると、そんな言葉づかいは誰もしていない、という特徴が役割語にはあるということになるのであるが、今回取り上げた感動詞「うむ」も、まさにこの特徴を備えていると言えよう。

感動詞「うむ」は、「実際には、唇を閉鎖した鼻音。かなのウ、ムにはあたらなない。」（『日本国語大辞典』第二版 小学館 「うむ」の補注）と説明されるものである。すなわち、用例①～④では、よくよく考えてみると、誰も「ウ」「ム」などと発声してはいないわけである。「よくよく考えてみると…ない」というこの様子を、

金田（二〇〇八）は「現実のものから乖離している」と述べた。この言葉を借りれば、〈博士語〉「〜じゃ」や〈お嬢様語〉「〜遊ばせ」、「上司語」「〜たまえ」などと同様に、現実との乖離がある感動詞「うむ」も役割語とあってよいことになる。

ただ、このように述べた場合、感動詞「うむ」における現実との乖離は、「〜じゃ」「〜遊ばせ」「〜たまえ」のそれとは、少し異なっているということに注意をして

おいてよいだろう。

すなわち、「〜じゃ」「〜遊ばせ」「〜たまえ」は、そうした言葉が実際に用いられていないことによって現実との乖離が生じているわけであるが、「うむ」の場合は、実際には唇を閉鎖した鼻音が用いられており、ただ、その表現（表記）がその鼻音に相当しない「う」「む」を用いてなされるために、現実との乖離が生じているということになる。いわば、意図的にずらした表現（表記）が行われることによって現実との乖離という特徴が生じているわけで、換言すれば、それによって、「うむ」は役割語度を高めているということになる。役割語「うむ」は、この点が、他の役割語と少し異なっていると見ることができよう。

#### 四 おわりに

今回は感動詞「うむ」のみを扱ったが、「うむ」同様に、実際にはその表記にはあたらなない音である感動詞は、他にも次のようなものがある。

⑤ 谷村部長「むっ!! 醤油をそれだけ味わった時にはあ

まりはつきりしなかつた両方の差が、刺身をつけて食べると歴然とする!!」(『美味しんぼ』③ 一一七頁)

⑥ 谷村部長「ううむ…………… 右の方の醤油はかきもちの米の味を殺している……………」(『美味しんぼ』③ 一一八頁)

⑦ 谷村部長「うーむ…………… それでかきもちをつけ焼きにした時、あれほどの差がついたんだな。」(『美味しんぼ』③ 一二〇頁)

このように注意してみると、実は、感動詞にはまだまだ役割語が潜んでいるのではないかと思われる。機会を別にして、あらためて考えてみたい。

## 【注】

(1) 「役割語」については、金水(二〇〇三)で次のように定義されている。「ある特定の言葉づかい(語彙・語法・言い回し・イントネーション等)を聞くと特定の人物像(年齢、性別、職業、階層、

時代、容姿・風貌、性格等)を思い浮かべることができるとき、あるいはある特定の人物像を提示されると、その人物がいかにも使用しそうな言葉づかいを思い浮かべることができるとき、その言葉づかいを「役割語」と呼ぶ。」(二〇五頁)

(2) 「役割語度」については、金水(二〇〇三)で次のように説明されている。「役割語度は、『ある話体(文体)が特徴的な性質の話し手を想定させる度合』というような尺度である。近い将来、言語学的・心理学的方法で厳密な数値化ができないとも限らないが、現在のところはなほだ暫定的・直感的な尺度として扱っておく。」(六七頁)

## 【参考文献】

金田純平(二〇〇八)「役割語―文法とコミュニケーション」  
シオン論を横断する新概念』『言語』第三七巻第五号 大修館書店  
金水敏(二〇〇三)『ヴァーチャル日本語役割語の謎』  
岩波書店

金水敏編（二〇一四）『役割語』小辞典』研究社

【引例資料】

『美味しんぼ』<sup>①</sup><sup>②</sup><sup>③</sup>（作・雁屋哲 画・花咲アキラ  
昭和六〇年 小学館）

（本学教授）